

カンパや基金に頼らない酪農業を次の世代へつなごう!

生活クラブでは昨年11月に「パステライズド牛乳」を値上げし、今年の2月と3月には「酪農応援緊急カンパ」を実施しました。しかしそれだけでは酪農家を支えるには十分ではなく、この4月から「2円で応援! 未来を明るくミルクビジョン」をスローガンに、牛乳1本(200mlは1単位)につき2円の「牛乳応援基金」をスタートさせました。

現在危機的状況といわれている酪農業を持続可能な産業へと転換していくために、生活クラブが今後どのようなことができるのか、生活クラブ連合会専務代行の岡田一弘さんにお話を伺いました。

(聞き手:消費委員長 真柄 恭子)



生活クラブ連合会
専務代行

岡田一弘さん

根本的な解決のために

真柄 緊急カンパに加え、牛乳応援基金もスタートしましたが、現状の酪農危機を切り抜ける一時的な対処法に過ぎないと考えています。根本的な解決には何が必要でしょうか。

岡田 酪農業においては、学校の長期休暇時期に需要が減るという「乳余り」の問題が以前からありました。また生活クラブの「パステライズド牛乳」(900ml)の利用もこの間落ちており、今年度はまずコロナ禍前の2019年の利用本数まで戻すことを目標に掲げています。

この3年間、生産者交流の機会が持てなくなっていました。利用結集に結び付ける動きとして、コロナ禍以前のように生産者と組合員が直接会って話をするのが大切だと考えています。

生活クラブの牛乳は生産者と組合員がこれまで作ってきた消費材で、生産者側からも「組合員に会いたい」という声が出ています。また「この春は牛乳に取り組もう!」という生活クラブの生協がいくつもあり、明るい兆しが見えています。

真柄 利用が落ちてきている牛乳の消費量をまずは戻すところからですね。

岡田 牛乳は生乳で利用することが望ましいと思いますが、食料安全保障の観点からも外国産のチーズが入手困難になる可能性もあり、牛乳の消費を増やすという観点からも加工品の取り組みもすすめています。以前に開発を目指したモッツアレラチーズを再開発するなど、加工品にもチャレンジして、外国産の乳製品に頼らないことも、日本の酪農業を持続可能な産業にする取り組みにつながります。

また、解決しなければならぬ配送の問題などがありますが、関東の生活クラブ生協では都市近郊酪農を守り、食育という観点も合わせて、さらに学校給食を通じて地域に牛乳を広めるという取り組みもすすめています。

社会全体を巻き込んだ消費行動へ

真柄 牛乳は消費量だけでなく、現在の乳価では酪農家もたない状況です。消費材の牛乳の価格はどうかあるべきだとお考えですか。

岡田 大手の乳業会社は、価格を上げることで牛乳の利用が減ることを懸念しています。また「乳余り」の問題もあるため、需要と供給の関係で乳価は据え置かれています。今回、生活クラブでスタートした牛乳応援基金の「2円」という額は、配合飼料

価格が2020年末対比で1.5倍に高騰したことを考慮に入れた額です。

「基金」という形にすることで、組合員から集めたお金は税金が差し引かれることなく、全額を酪農家に届けることができます。今後集まったお金は積み立てず、定期的に酪農家に届けられます。今回の取り組みについて酪農家からは、「2円の基金があれば、前を向いてやっていける」という声がありました。

しかし、生産にかかる費用は飼料だけでなく、光熱費も上昇しています。さらに子牛の価格が暴落したため、これまで雄の乳牛を肉牛用に売って得ていた酪農家の収入も減少している状況で、「2円」は十分な額とは言えません。

真柄 市販の価格を抑えた牛乳を購入していても、日本の酪農問題は解決できません。牛乳を適正価格で購入することが、自分たちの食の安心につながることを生活クラブの組合員以外の人にも理解してもらわなければ、この問題の解決は難しいですね。

岡田 そうですね、生活クラブの組合員だけではなく、社会全体を巻き込んだ消費行動が必要になりますね。

真柄 適正価格で牛乳を飲んでいくことを生活クラブの組合員だけでなく社会にも伝えていくことで、日本の酪農のあり方を良い方向に変え、安心して飲める牛乳を次の世代にもつないでいきたいと思っています。

持続可能な畜産業に向けて 生活クラブは取り組んでいます！

2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵略の影響でエネルギーや飼料の価格が世界的に高騰し、生産コストが上昇しています。また円安が続いており、外国に飼料原料を頼っている日本の畜産業は、さらに打撃を受け、現在危機的状況にあります。とりわけ、これまで雄の子牛を食肉用に販売して経営を維持してきた酪農業においては、子牛価格の暴落という要因も加わっています。また2020年より続くコロナ禍で牛乳の需要が減少していることも、酪農の経営を悪化させています。

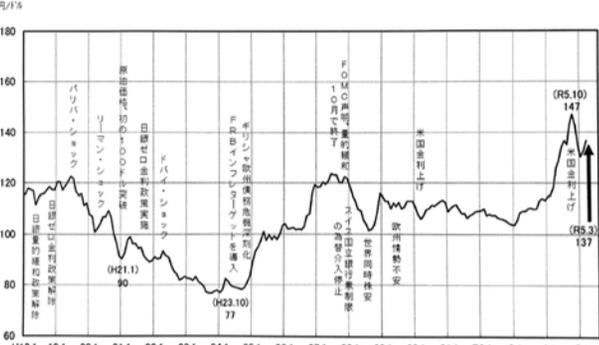
酪農をはじめ畜産業の持続可能な生産基盤づくりとして、生活クラブでは「ローカルSDGs」の理念のもと、農業と畜産業が連携する「耕畜連携」の取り組みをすすめています。

まずは安定的なエサの供給とコスト・ダウン！

畜産業における生産経費の中で、飼料代は50%以上の割合を占めているため、国際情勢や円安による輸入飼料価格の高騰は、経営に大きく影響を及ぼします。またコスト面だけでなく、海外に飼料を依存している状況では、有事の際に供給が不安定になり、入手できなくなる懸念があります。

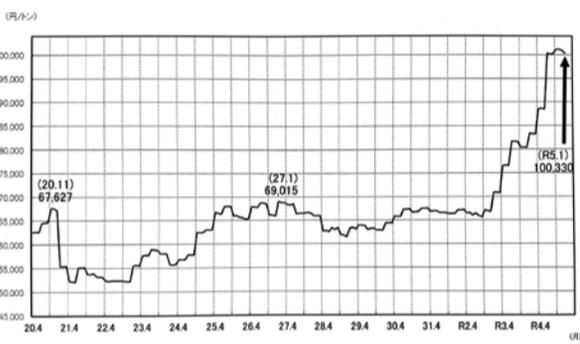
新型コロナウイルスのパンデミックやロシアのウクライナ侵攻で世界の物流が滞るなどの経

○ 為替レートの推移（東京外国為替市場、銀行間直物）



資料：畜産局飼料課調べ
注1：平成7年2月までは日々の終値の月平均値であり、3月からは日々の中心値の月平均値である
注2：令和5年3月の値は10日までの平均値である

○ 配合飼料工場渡価格の推移



資料：（公社）配合飼料供給安定機構「飼料月報」
注：配合飼料価格は、全畜種の加重平均価格である（令和5年1月の価格は速報値）

り、養豚や米生産者、JA、飼料会社などと共に「食糧自給率向上モデル事業推進会議」で協議を重ね、畜産業における飼料用米の導入をすすめています。

2021年度、生活クラブの全提携畜産生産者が使用した飼料用米は、1万4千トンを超える水準となっており、増加傾向です。輸入飼料の価格が高騰している中で、国産飼料用米価格の優位性が認められています。

飼料用米の導入は、家畜の生理や肉質、生産性などを考慮しながら給餌量設計をすすめており、特に適性が高い養豚や採卵鶏などでは給餌率の拡大に向けて準備がすすめられています。またタパク質成分の多い米の品種の選定をして、輸入大豆が削減に向けた取り組みもおこなわれています。

国の施策においても飼料用米の栽培は、水田活用用の国内自給戦略作物として2011年度から戸別所得補償（現在は経営所得安定対策）補助金を付けて推奨されています。畜産における需要も増えたことから生産は拡大し

ています。2021年度産の飼料用米生産量は66万でした。

国産の子実トウモロコシの取り組みも拡大中

2021年度に全国で6千477トンの生産量があった子実トウモロコシは、2022年度産は倍増して1万トンを上回る勢いで生産の拡大がすすんでいます。作付けの約8割は北海道が占めています。国の普及政策を受け、ネットワークとなる協会の設立により、生産地が全国に広がってきている状況です。

生活クラブでも、子実トウモロコシの生産基盤がある生活クラブ北海道で「北海道チクレン」の肉用牛への導入取り組みが先行しておこなわれています。

2022年度からは、新たに本州の生産者の肉用牛や採卵鶏、養豚でも試験的に導入を開始しました。今後も継続して国産の子実トウモロコシの有効性を確認しながら、畜産生産者との取り組み拡大に向けた検討をすすめて、輸入飼料に頼らない国産飼料の自

給力を高める取り組みをすすめます。

飼料用米や子実トウモロコシなど耕畜連携の取り組みで飼料の国内自給力を高め、より安定した国内の生産基盤作りをすすめています。私たち組合員の利用結果も畜産業を支える大きな力となります。生産現場での取り組みを理解して、みなで消費材を利用しましょう！

消費担当常務理事 山路登葉

飼料用米の維持・拡大

生活クラブでは2002年よ



牛乳 200ml×2

牛乳 900ml

ノンホモ牛乳 900ml

低脂肪牛乳 1000ml

消費委員会
**「よやく・る」りんご
 学習会**
 2月25日(土)
 エスコープ大阪本部
 (堺市南区)

消費委員長 真柄 恭子

2023年度から「よやく・る」りんごの取り組みのしくみが変わるため、生産者を招いて「よやく・る」りんご学習会を開催し、組合員14名、職員・W・Cオススタッフ34名が参加しました。学習会では、長野県から「御牧ヶ原原林橋農場」、「自由個性集団あく」と、「八ヶ谷会」の生産者からたくさん話を聞くことができました。



同じ長野県でも三者三様

を生産者に了承してもらえたことがうれしかったです。夏場の除草作業など今までと違う作業があつて大変だろうなと思いましたが、りんごの樹は枝を広げた大きなものを思い浮かべますが、「御牧ヶ原林橋農場」の「わい化栽培」のりんごの樹の写真にはびっくりしました。「こういう樹だとりんごに太陽が当たりやすく樹も低いので収穫しやすい」と話されました。ですが、樹が

細いので下の雑草を機械で除草することができないというのは大変だと思いました。3生産者の中で標高720メートルと一番高い標高にあり広い敷地なのは「御牧ヶ原林橋農場」で、一番低い標高に生産者が多いのは「八ヶ谷会」でした。なぜ「八ヶ谷会」という名前

は川の氾濫で土手が崩れて近くにありりんごの樹が大被害を受けたこともあつたと聞きました。気候変動は多大なる被害をもたらしています。近年は、以前のように春夏秋冬がはっきりと分かれて徐々に季節が変わるといことが珍しくなっています。りんごの花が咲くころに異常気象が起こると、りんごの実がならなくなり、そのため、生産者は品種改良して気候に強い品種を生み出した、毎日の作業に追われながらも未来を見据えて生産を続けているという話を聞くと、「ただりんごを食べたいだけではないのか」と思いました。生産者それぞれの味がありますが、生活クラブのりんごはどれも美味しく、安心して食べることができるといことをたくさんの人に伝えていきたいです。

「りんごを一日1個食べると身体にいい影響がある」と聞きました。「よやく・る」に登録するといろいろな品種のりんごを食べることが出来ます。生産者の顔が見える、食べている組合員の顔を思い浮かべられるそんな関係を続けることの大切さを実感しました。

北村さんは、長年エスコープ大阪の組合員ですが、ひとり暮らしになり、年齢と共に注文する量も減ってきたため生協脱退を検討していました。そんな頃エッコロカフェに参加した縁で、南河内地域準備会の「福祉コミュニティ」に参加されることになりました。エッコロカフェで知り合った組合員と数年ぶりに再会し、「人が集まる場所」づくりの活動をすすめています。



北村 節子さん [南河内地域準備会]

3月に南河内地域準備会で「豆腐づくり体験」の企画(写真)をした際、会場への行き方に自信が無かったため、エッコロ制

度、「日常生活の困ったを支えるケア」で初めて制度を使い、知人の組合員に会場まで案内を依頼しました。「エッコロ制度って、こんなに簡単に使えるの！加入して良かったわ」とのことです。

北村さんは普段家にいると誰とも話をしないことが多いのですが、会場では小学生の親子と一緒に豆腐づくりをして楽しそうでした。「やはり人との関わりが大切」ということで、少し面倒に感じていた消費材の注文も「よやく・る」で楽しんで加入を継続されるそうです。

今年度から生活クラブ関西6生協全体で「よやく・る」として取り組むことになり、今までエスコープ大阪では取り扱っていなかった「八ヶ谷会」のりんごも入ることになりました。肥料や薬剤など栽培方法、出荷時の箱なども統一をすすめるので、今までと違う作り方や出荷の仕方も変わること

「環境負荷の少ない生活を送るため、どのような日用品を選べばいいのか？」堺市街地地域の「環境コミュニティ」では、このテーマを3名の登録者と一緒に考えてきました。

環境コミュニティ

堺市街地地域委員 藤木 友香

環境負荷の少ない生活を送るために



剤、そして身だしなみ用品など、暮らしには清潔を保つための製品が欠かせません。その一方で、これらが排水としてシンクに流れた後のことは、なかなか意識しづらいものです。

「なぜそこに意識を向けないのだろうか？」「そもそも、私たちはどんな日用品をどんなタイミングで使っているだろうか？」「排水は本当に、そのまま飲めるくらいに浄化されているのかな？」などの課題が浮かび上がり、「国内外での下水処理の状況を調べてみよう」、「私たちの地域の浄水処理を知るため、『泉北水再生センター』(堺市中区)を見学しよう」と活動を進めました。

その結果、浄水処理には微生物の力が必要なことや、排水中の油脂が微生物の活動を鈍らせること、事業所からの排出物質を取り締まる「水質汚濁防止法」では合成洗剤が規制されていること、また高度な浄水処理ができる「膜処理」という設備にもメンテナンスなどの面で課題があることなど、様々な発見がありました。泉北水再生センターの運営が民間委託されていることもわかりました。

見学を受けて、「どんなものを台所から流しても、自治体がきれいに浄化してくれるから構わない」という考えではいけないね、「自分の出す排水もなるべくきれいにしないとね」という考えをみんなで共有しました。学習の成果は、『地域ニュース』として発行予定です。

生まれも育ちも和泉市です。最近実家を解体し、新たに二世帯住宅として建て直しました。親は孫と一緒に住めることをすごく喜んでいて、毎日ウキウキしています！

前職は、他生協で働いていました。そこでの仕事内容は基本分業体制で、配達業務を担当していました。エスコープ大阪に入協し

職員さんが自己紹介!!



小川 尚也(35歳) エスコープ大阪在籍年数6年6ヵ月 [共同購入フロア]

て配達業務に就き、組合員拡大や共済など担当のする仕事内容が幅広く大変でしたが、慣れてくると心に余裕ができて、楽しくなってきました。エスコープ大阪のことを知らない方に声をかけて加入してもらえると嬉しい。仲間が増えていく楽しみ。消費材が気に入ってもらえて新たに友達を紹介してくださる嬉しさ。この感情はエスコープ大阪ならではのと思えました。組合員生産者、職員、一人ひとりのつながりが強い生協なので、身近に勉強ができて、毎日楽しく働いています。まだまだ未熟ですが全力で頑張っていきます。

紹介します!! うちの地域の組合員さんです

加入して良かった! エッコロ制度



北村 節子さん [南河内地域準備会]

第9回
理事会報告 <3月1日>

【1月度決算報告】

- 供給高 2億1,931万円(前年同月比100.3%)
- 組合員数 18,937名(前月比△83名)
- 一人当たりの出資金 89,641円

【2月の放射能検査結果】

2月は連合消費材666検体の放射能検査を実施しました。エスコープ大阪供給分で生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①㈱ウイナークラブの役員候補者の選出について
- ②総代会議案「定款の一部変更」について
- ③2月理事会「総代会開催について」の修正

【協議事項】

- ①各地域の担い手づくりの進捗状況の確認と意見交換
- ②全体・地域活動計画と予算の確認
- ③全体区の役員候補者の決定と地域区理事推薦状況の確認
- ④2023年度組織体制
- ⑤「紀伊半島協議会」への参加
- ⑥「エスコープ大阪まつり」の進め方
- ⑦「グリーンピース」閉所後の施設利用
- ⑧「W.Coファント」との『旬菜セット』野菜仕分け・出庫作業の業務委託契約締結
- ⑨大阪府による令和4年度定期検査結果について
- ⑩2022年度年末年始単協活動報告&意見要望書
- ⑪2023年度「グリーンシステム」キャンペーンについて

【報告承認事項】

- ①「敵基地攻撃能力(反撃能力)の保有と防衛費増大に反対する消費者団体共同声明」への賛同

編集後記

久しぶりにお会いした「中井製茶」の中井章人さんはすっかり頼もしくなっていてびっくりしました。お茶畑は、おじいさんからお父さんへ、そして息子の章人さんへ引き継がれています。お互いの顔が見える関係もぜひ引き継ぎ、栽培方法やお茶業界のことなど、どんどん膝をつき合わせて話をしていきたいと思いました。(Y)



次世代生産者紹介

いっしょに創る未来

京都府相楽郡和束

中井製茶

中井 章人さん 植田 修さん
後藤 なつきさん

植田 以前は酪農家をしていましたが、中井さんの

つくりに戻りました。今は、生協に育ててもらっていることがわかり、続けていきたいと思っています。今は、植田さんとジャックさん夫妻の育てた茶葉を中心に、お茶を製造しています。

中井 今、日本のお茶の消費量が減っています。ペットボトル入りのお茶は増えていますが、茶葉を急須で飲むことが減っています。このままではお茶業界が危ない。追い打ちをかけ、入札価格も下がっています。肥料代や乾燥機の燃料費などはどんどん上がっています。

中井 生産者と組合員の距離を縮め、交流を続けていきたいですね。畑を見に来てほしいです。組合員、職員の生の声を聴かせてほしいと思います。そして、父親の代で作った「針江げんき米栽培グループ」の玄米とコラボした「玄米茶」のような、組合員と他の生産者とのコラボ消費材を作ってほしいです。

中井 中井製茶は、祖父の代に泉北生協(現エスコープ大阪)と取引が始まりました。生協とのつき合いの中、農薬のことや遺伝子組み換え(GM)のことなどを知り、生協の考え方に共感し、それからずっと産直関係が続いています。以前、本当に飯を食べていけないかと不安になり、お茶づくりから離れたこともありましたが、父親に「戻ってくれんか」と言われ、父親が急に亡くなったら、生協に迷惑がかかるかと考え、再びお茶

後藤 学生の時に国際ボランティアで和束町に来て以来、和束町が大好きになりました。タイ人と結婚し、一時は日本を離れましたが、「和束で農業がしたい」と家族と一緒に和束町に戻ってきて就農しました。農業は環境とつながっており、大事にしていきたいと思っています。

植田 煎茶だけでなく、紅茶も作っています。ぜひ組合員の方に試飲してほしいですね。

お茶をもっと広めていきたいです。敷居が高いと思う人も多いですが、生活スタイルに合わせて楽しめたらいいのでは。これから夏場は『ほうじ茶ティーパック』で水出しほうじ茶がおすすです。ティーパックを水に入れてひと晩おくだけ。甘みが出てまろやか、そして手間いらずです。

急須を使って
お茶を飲んでほしい

これからはお茶だと思ひ、お茶農家に転身しました。

お父さん(章洋さん)に出会い、和束町の魅力にはまってしまいました。海外の人にとってお茶は日本の象徴

ろもありませんが、高齢になって跡継ぎがおらず、廃業しているところが増えていきます。急こう配の所や山の上から荒廃茶園が増えていきます。このまま農家がなくなると日本から茶畑がなくなってしまうます。

おたよりネット

「りっふる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

241号「こんにちは! 近畿親生会です」を読んで

紙面モニター Sさん

「コーヒー焙煎ワーカーズ 珈琲工房まめ福」のおよそ20年間にわたる取り組みは、原材料、産地、生産者との深い交流により実現されたのだと改めて感動しまし

た。ワーカーズ・コレクティブならではの、80歳のスタッフさんも働ける。「生涯現役すばらしい! 還暦前の私も、まだまだ20余年働けるじゃない!」と思いました。

Ripple おたよりネット

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
243号(2023.4.24)

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/